



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 213
December
2010

トピックス

アジア災害情報

インドネシア西スマトラ州メンタワイ諸島地震・津波被害現地調査

国際会議への参加

第17回アジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSF-17) に参加

お知らせ

客員研究員 (ASEAN-GLIDEプロジェクト) の研修

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2010

●アジア災害情報

インドネシア西スマトラ州メンタワイ諸島地震・津波被害現地調査

本年10月25日の午後9時過ぎ、インドネシア西スマトラ州メンタワイ諸島沖で発生した地震・津波は、メンタワイ諸島の北パガイ島・南パガイ島を中心に500名を超える死者・行方不明者が発生するという大災害となりました。アジア防災センター (ADRC) 所長は、「JICA-JSTインドネシアにおける地震火山の総合防災策プロジェクト」の一環として実施された日本とインドネシアの合同のメンタワイ諸島地震津波調査に参加し、主に事前の備え、緊急支援、復旧等の政策面に着目した調査を実施しました。以下、今回の災害の特徴や今後の取り組みに関しいくつか考察を致します。



- ・メンタワイ諸島の被災地のような遠隔且つ到達困難な地域では人道支援がそれぞれの地域迅速に到達することが困難であり、実際、多くのNGOは所期の目的を果たせないままに当地を去らざるを得なかったとのこと。
- ・海岸沿いの津波等の危険性が高い地域から高台のより安全な地域への移住 (再居住) が政府により推進されていますが、それは必要なことではありますが、その規模を考えると早期に実現するには様々な困難な点があります。まして、そのような危険な地域は今回の被災地に限ったものではなく、インドネシア全土に広がっています。移住を促進しつつ、津波の危険性の高い地域では、避難路や避難施設の整備が急がれます。また、それらを実施するためには、海岸地域の集落等のアセスメントが先ずは必要となります。
- ・もし整備されていれば今回の地震・津波ではどの程度有効であったかは不知ですが、テレビのテキストを見て避難を開始したという証言があるように、ある種の速警報システムは引き続き整備されていくことが必要です。しかしながら通信インフラの未整備な当地のような地域では、テレビ、携帯電話、ラジオ等の日常の手段を活用していくことが有効であると思料されます。
- ・現在活動中のNGO等も数週間、数ヵ月後には活動を終了していくと考えられ、被災者の住宅のみならず生活の一刻も早い再建が必要ですが、どのよ



続き

うに実現されるかは不明なところがあります。被災者は現在でも過酷な生活環境にありますので、政府に加えてマルチ・バイの援助機関等による大量且つ迅速な支援が望まれます。

- ・災害が様々な地域で頻発するインドネシアのような国では、ある種の相互扶助（共助）又はリスク分散のシステムの構築が望まれますが、そのようなシステムは商業ベースでは難しいので、政府によるサポートが不可欠となります。
- ・以上に加えて、国から地方政府、さらにはコミュニティの災害対応能力はなお一層強化されることが必要です。また、そのような対応能力の向上においては、単に発災後の緊急対応だけではなく、復旧や長期的復興、さらには減災や事前対応等も包含した能力強化であることが必要です。

**●国際会議への参加****第17回アジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSF-17) に参加**

2010年11月23日から26日まで、豪政府、日本の文部科学省、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の共催により、アジア太平洋地域宇宙機関会議（Asia-Pacific Regional Space Agency Forum, APRSAF）の年次会合がオーストラリアのメルボルンで開催されました。

APRSAFはアジア太平洋地域における宇宙利用の促進を目的として1993年に設立された、アジア太平洋地域で最大規模の宇宙関連会議です。この会議には、各国の宇宙機関や行政機関、国連等の国際機関や民間企業、研究機関等さまざまな組織が参加しています。

APRSAFでは、各国の宇宙活動や将来計画に関する情報交換を行うとともに、災害や環境など共通の問題解決に向けた具体的な国際協力活動を行っています。その活動の1つに「センチネルアジア」があります。これは、地球観測衛星画像などの情報を災害管理に活用しようとする活動です。ADRCは、1996年からこのセンチネルアジアの枠組みの中で、災害発生時におけるメンバー国等からの緊急観測の要求の窓口としての審査、宇宙機関との連絡調整等の役割を担っています。

今回の会議は、“The role of space technology and industry in addressing climate change”をテーマに開催されました。ADRCは、センチネルアジアにおける2010年の緊急観測の実績を発表するとともに、衛星画像等の解読には、確かな技術と経験が必要であることを画像利用の成功例と失敗例を挙げて説明し、ADRCが日本-アセアン統合基金を用いて実施している、衛星画像の防災利用のための人材育成プログラムを紹介しました。

**●おしらせ****客員研究員（ASEAN-GLIDEプロジェクト）の研修**

日・ASEAN統合基金（JAIF）を活用したASEAN-GLIDEプロジェクトの一環として、3名の客員研究員が来日しました。本プロジェクトは、防災のためにGLIDEシステムを利用して、ウェブ上で過去の災害データベースを構築することを目的にしています。

続き

[Mr. Kheang Chansophearom (カンボジア)]

私はカンボジアから来ましたケアンと申します。カンボジアでは国家防災委員会に所属しています。今回の研修においては、日本の災害管理体制や、GLIDE番号が実際にどのように使用されているか学びたいと思います。また、セミナー、ワークショップ、過去の被災地、他の災害関連機関を訪問し、多くの災害対策についても知識を得たいと思います。

今回、アセアンGLIDEプロジェクトの客員研究員として参加できることを嬉しく思います。この研修において、自分の防災の知識を向上させて、自国でGLIDE番号を有効的に活用できるように頑張りたいと思います。

[Mr. Nyi Nyi Naing (ミャンマー)]

私はミャンマーから来ましたニィニィと申します。私の所属する社会福祉省救済再定住局はミャンマーにおける災害管理を取り扱う組織です。社会福祉省救済再定住局は、災害による人命及び財産の被害を抑えること、さらに、被災者の方々への支援活動を目的としています。

ミャンマーは、火災、嵐、洪水、津波、地震など多くの自然災害にさらされています。そこで今回の研修において、日本における効果的な災害管理の手法を学びたいと思います。

[Ms. Arie Astuti Wulandari (インドネシア)]

私はインドネシアから来ましたアリエと申します。インドネシアでは国家防災庁に所属しています。自国は4つのプレートによって多くの島々が形成されています。この複雑なプレートの構造によって、多くの火山、地震、津波などが頻発しています。また、地形的及び気象学的な影響によって、地滑り、洪水、森林火災や干ばつ等の災害も発生し課題となっています。

アジア防災センターの客員研究員プログラムは、メンバー国の関係者にとって、防災・災害リスクの軽減(Disaster Risk Reduction:DRR)の促進、災害管理の実践、各国の政策にDRRのコンセプトを組み込む手法等を理解できる素晴らしい機会となっています。私が日本で得る経験を、インドネシアの防災体制に役立てることができるよう頑張りたいと思います。最後に、国家防災庁へ頂いている支援についても合わせてお礼を申し上げます。

本研修は12月16日に無事終了しました。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。